
迷える子羊同好会

ポニー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷える子羊同好会

【Nコード】

N0417Q

【作者名】

ポニー

【あらすじ】

俺（桔流 きりゅう）功（こう）、高校2年生。

突然、父親の仕事の都合で

寄ヶ《が》岡高校おかに転校することに。

そこで偶然にも幼なじみであった

朝霧 美柑あさぎり みかんに、部活への入部を勧誘される。

その部活とは一体何なのか・・・

第1話・【謎の部活!?!】(前書き)

俺(きりゆう) 桔流(こう)、高校2年生。

突然、父親の仕事の都合で

寄(よ)り岡(おか)高校に転校することになる。

転校して1ヶ月。

偶然にも幼なじみであった朝霧(あさぎり) 美柑(みかん)と出逢い、

「迷える子羊同好会」という部活の勧誘を受けることに!?!?

「迷える子羊同好会」のメンバーが繰り広げるとたばたラブコメデ
イ。

第1話・【謎の部活!?!】

桔流 功、高校2年生。

大人しい性格の持ち主で、おひとよしと良く言われる。
どこにでもいる普通の男子高校生だ、

高校2年の4月、急遽きゅう父親の仕事の関係で引越ひきこすこととなり、

移住先の近くにある「寄ヶ岡よりおか高等学校」に転校することに。

この転校が功の人生を大きく変えることに・・・

俺が「寄ヶ岡高等学校」に転校してきたのは、5月の頭のことだ。

「寄ヶ岡高校」元女子校ということもあって、非常に男子生徒が少ない。

校内に入っていくと女子生徒ばかりで、功の居場所はほとんど無いに等しい。

まだ友達も居ないし、これからどうすれば良いのやら。悩むばかりであった。

そんなとき、1つ奇妙な部屋を見つける。

功：「・・・迷える子羊同好会？」

初めて見る部屋だったこともあり、少し興味を惹かれた。

名前からは想像もつかないこの部屋。

そんな部屋に見とれていると朝のチャイムが鳴り渡り、

生徒達は一斉に教室に戻り始める。

功もチャイムに気づき、教室へ向かうことに。

功：「確か、俺のクラスは「2年C組」だったな」

そして教室に入り、クラスメートの鋭い視線を感じながらも自分の席に着いた。

暫くして、橋本先生という美人で有名な先生がやってくる。

橋本先生：「皆さん、おはようございます」

さすが、男子生徒も一目で惚れる、そんな先生だった。

生徒：「おはようございます」

橋本先生：「みんな。今日から新しくこのクラスの一員として、

紹介したい転校生がいます。桔流君？」

一斉にクラスメートがざわざわと騒ぎ始める。

功：「は、はい」

美人な先生を前に、健全な功は緊張する。

橋本先生：「ちょっと前に来てくれるかしら。少し自己紹介をお願いできますか？」

功：「はい。初めまして、桔流 功です。よろしくお願いします」

橋本先生：「桔流君はまだこの学校に入ったばかりだから、

みんな仲良くしてあげてね」

自己紹介が終わると、

功の容姿が抜群に良いせいか、女子生徒から早速騒がしい声が。

多分、珍しく男子生徒が転校してくると聞いて

バタバタと騒いでいるのだろう。

「はあく」と大きくため息をつきながら、

異性との距離感をなかなか掴めずにいる功は、

ただただ席に座りっぱなしだ。

そんな騒がしい朝無事に迎え、とりあえず一息をつく。

そして、教室に向かう途中に見つけた部屋を思い出す。

功：「あの部屋は一体なんだったのだろうか」

不思議に思いつつ考えている所だったその時、

女子生徒：「功・・・だよな？」

不意に俺の名前を呼ぶ声が。

功：「えっと、どこかで逢ったかな？」

彼女はちよつと顔を曇らせながら、「こう言っつ。

女子生徒：「そうだよな、覚えてないのも無理ないかな。

小学生の時よく一緒に遊んでたんだけど

功は懸命に思考を巡らせて良く思い出してみる。

するとそれらしき名前が浮かび上がってきた。

功：「……美柑みかんだよな？」

曇っていた彼女の顔は、太陽のような輝きを見せる。

美柑：「うんうん、そうだよ。覚えてくれたんだね」

功：「お、おう。もちろん覚えてる。随分と変わってたからすぐに気が付かなかった」

美柑：「そ、そうかな……」

私は何にもあの頃と変わってないよ。

私も功がすっかり変わってたからびっくりしたよ」

朝霧あさぎり 美柑みかん、物静かでショートヘアが特徴的な美少女。

小学1年の時から功と幼なじみで、いつも功の傍にいた。

普段から大人しい性格であり自分から声をかけないが、功だけは特別なようだ。

功：「まあ、暫く逢ってなかったからかもな。

まだ転校してきたばっかだけどよろしくな」

美柑：「うん、よろしくね。」

でも、どうしてこの学校に転校してきたの？」

功：「突然、親父の仕事の都合でここに越してくることになってさ」

美柑：「そうだったんだ。」

でも、また一緒になれたからちよつと嬉しいな」

常に笑顔を絶やさない美柑に、少し可愛いさを感じる功。

やっぱり昔と変わってないなあ、美柑は。大人しい感じも変わってない。

とりあえず、学校生活はひとまず安心かな。

だが、俺にはまだ1つの疑問が・・・

偶然にも朝見つけた「迷える子羊同好会」という部屋のことだ。

一体どんな部活なのか謎に包まれている。そこで、美柑に聞いてみた。

功：「この学校にさ、変な部屋あるよね」

美柑：「えっ？ そんな部屋ってあったかなあ？」

少し天然なのか、ポワポワしている美柑。

功：「ほら、偶然朝見かけたんだけど「迷える子羊同好会」っていう部屋でさ」

美柑：「ああ、あれはね私が入部してる同好会なんだよ」

功：「ええ！？ 美柑があのだの同好会のメンバー！？」

いきなりの返答に、挨拶が出来ない功。

美柑が部長を務めるその同好会とは一体何なのか、真相は続く。

第1話・【謎の部活!?!】(後書き)

定期的に更新予定です。

第2話・【同好会入部】（前書き）

父親の仕事の都合で、

寄ヶ岡高校に転校することとなった桔流 功。

転校先には偶然にも幼なじみだった朝霧 美柑と出逢う。

美柑とは小学校からの幼なじみで、一安心した功であったが・・・

「迷える子羊同好会」という奇妙な同好会を目の当たりにし、
しかも、幼なじみの美柑も入部しているという。

一体、その部活とは何なのだろうか。

第2話・【同好会入部】

功：「お前、あの同好会の部員なのか!？」

美柑：「う、うん。入部のきっかけは、私がこの学校に入ったばかりの時だったかな。まだ、学校に慣れなくて静かに生活してたの。それから1ヶ月くらい経って、放課後、引き出しの中に忘れていた数学の参考書を取りに帰ろうとしたら教室にたたずんで窓を覗く2年生の先輩が居てね」

功：「2年生の先輩？ 何で1年の教室に2年生が」

美柑：「その先輩、姫路先輩って言うんだけど教室に私が来るのを待っていたみたいで」

功：「ちよつと待てよ、忘れ物を取りに行ったら2年生が居て美柑を待ってた？ええつと、ええ？」

美柑は功の話の聞かずに黙々と話を続けた。

美柑：「それでね、思い切って教室に入ったら・・・」

1年生の時】）

）美柑と姫路先輩の回想シーン【美柑が高校

姫路先輩：「あつ、もしかして朝霧 美柑ちゃん？」

美柑：「は、はい。え、え、えつとどこかでお逢いしましたでしょうか？」

姫路先輩はじつと美柑を暫く見つめながら、こう言った。

姫路先輩：「決めた！！ 美柑ちゃん、「迷える子羊同好会」に入部しない？」

唐突に物事を決める姫路先輩に対し、おどおど混乱し始める美柑。

美柑：「ど、どうして私の名前を？ マヨエルコヒツジドウコウカイ？」

慣れない言葉に戸惑ってしまう。

姫路先輩：「私3年E組の姫路 美羽。びっくりさせてごめんなさいね。「迷える子羊同好会」って言う同好会の部長をやっています」

「ぼえ〜」と言っているような顔をする美柑。それもそのはず、いきなりすぎたのだ。

姫路先輩：「まだこの学校に入ったばかりだよね？ 部活とか興味ないかな？」

美柑：「私・・・まだお友達も居なくて。部活もなかなか決められないんです」

姫路先輩：「大丈夫大丈夫。とりあえず、入部してみない？ 入っ

たらきつとお友達も作れるからさ」

～回想シーン終わり～

功：「・・・急すぎないか？（苦笑）」

恐らく、誰しもが急すぎると感じてしまうのは当然だ。

なんで知りもしない先輩が美柑を同好会に勧誘？ 謎すぎる。

美柑：「えへへ、私もびつくりして戸惑っちゃった」

答えになってない。

美柑：「功も”迷える子羊同好会”に入ってみない？ まだ部活決めてないよね？」

功：「まあな。俺もちよつと興味あったし・・・美柑もそういうなら」

美柑：「本当？ うんうん、きっと功も楽しく活動出来ると思うよ。放課後一緒に行こう」

功：「おっ、おっ」

功と呼ばれるのは小学校以来なので、今更ながら照れる功（世間ではリア充と言うのだろうか）

6時間目が終わり、放課後、美柑と一緒に入部届を提出しに行った。

美柑：「功、ここだよ」

功：「やっぱり変わってるよなあ、この部屋」

それもそのはず。学校とは思えないくらい設備が充実しているのだ。

パソコン・液晶テレビ・当学校の生徒表一覧。全て管理しているみたいだ。

美柑：「功、こっちこっち。姫路部長、こんにちは」

姫路先輩：「おっ、美柑。遅いぞこのこの（ ）（ ） 私は寂しかったぞお」

何なんだ、この部長は・・・

そして、この姫路部長以外にも部員である4人の（一癖ある）美少女と共に過ごすことに・・・

俺の人生はどうなってしまっのか（トホホ・・・

第2話・【同好会入部】（後書き）

随時更新予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0417q/>

迷える子羊同好会

2011年1月12日20時43分発行